

自己有用感を高め、ふるさとに対する思いを深めていく  
子供の育成を目指して  
～学校から地域へ 地域から学校へ～

## 1 はじめに

### ○ 実践の目的

本校は、今年度創校150周年を迎える。全校児童59名という小規模校であり、子供たちは素直で優しく学年隔てなく仲がよい。また、登下校の見守りはもちろん、学校田や畑、総合的な学習の時間や生活科、理科、家庭科等の学習、さらには、姉妹校である東京都渋谷区立猿樂小学校との交流活動を代表とする特徴ある学校行事等様々な場面で多くの地域の方々に関わって頂けるよい文化が受け継がれた恵まれた環境にある。そこで、今年度は創校150周年という節目を契機に、今まで当たり前に行ってきた活動を教師と子供たちが一緒になって「地域とのつながり」という視点で見つめ直したい。その過程で、学ぶ仲間と対話しながら自分たちが地域の中で大切に育てられていることを実感し、嬉しいと感じられるようにしたい。そして、子供たちの感じた思いを積極的に発信する活動を通して自己有用感を高め、ふるさとに対する思いを深めていく子供の育成を目指したい。

### ○ 実践の内容・方法

子供が主役となり対話を通して活動を創る授業や活動を設定する力、教師の授業デザイン力の向上に焦点を当て、以下の三つの視点で研究を進め、実践していく。

【視点1】子供たちが対話したくなる授業デザインの工夫（子供が学校に来たくなる授業づくり）

【視点2】OJTの充実を基盤とした研修の工夫（教師が学校に来たくなるチームによる研修）

【視点3】学校と地域がつながる活動の活性化（地域の方々に来たくなるしかけ）

## 2 活動の実際

### ○ 1・2学年 生活科「やさいをそだてよう～畑の先生とともに～」



畑の先生に教えてもらいながら、サツマイモの苗植え



収穫したサツマイモの前で記念撮影

1・2年生は、地域のボランティアグループ「まつたけの会」の方々（通称：畑の先生）に協力していただきながら、学校の畑で枝豆やサツマイモ、キュウリ等の野菜を育てている。畑の先生に教えていただき、苗を植えてからは、子供たちは毎日水やりと野菜たちの健康観察をしに畑に行くようになった。自分たちの育てている野菜だけでなく、畑に来ている虫や生き物に興味をもって観察する姿も見られる

ようになった。育てているうちに、「野菜を元気にしたい」「もっと大きくしたい」と願いをもった子供たちは、どのようにしたらよいか自分たちで調べたり工夫したりした。しかし、「肥料はいつやればいいのか」「サツマイモはもう収穫できるのかな」といった自分たちでは解決できない疑問が出てきた。「うちのおじいちゃんの畑はすごく大きく育っていたから、おじいちゃんに聞いてみるよ」「朝、畑の先生に会ったら聞いてみよう」と、自分の祖父母や地域の方に直接尋ねる姿も見られた。子供たちは自然と地域の方たちを慕い、自分たちだけで育てた野菜ではないと、お礼の手紙を送ったり、全校児童にも味わってもらいたいと給食に出していただいたりした。野菜を育てることを通して、自分たちの住む金山への親しみや愛着が増していった。

## ○2学年 生活科「自分たちの地いきにでかけよう」



地域の郵便局を探検し、局長さんにインタビュー



校区の地図を見ながら場所を確認する。

金山小学校はバスで通学してくる子供もおり、校区が広い。そこで、自分の家の近くにある自慢したい場所や自分の好きなところを紹介し合い、金山地区をもっと好きになろうと町探検を行った。郵便局の局長さん、お寺の住職さんにインタビューしたり、お話を聞いたりした。局長さんから、昔のポストは黒だったなど、ポストの歴史について詳しく教えていただいた。子供たちは、興味津々でお話を聞いていた。住職さんからは「一人でできないときは、『頼む』『分かっている人に聞く』『一人で悩まないで、みんなで協力』と、素敵な教えをいただき、感動した子供たちだった。実際に足を運び、地域の方と実際に触れ合うことで、自分たちの地域のよさを改めて感じる事ができた。

## ○3学年 総合的な学習の時間「金山の自然調査隊 ～地域の先生に聞こう～」



昔のホタルの集め方を教えたもらい、実際にやってみる。



ホタルのことについて地域の学習支援講師の方から話を聞く。

3年生の子供たちは金山の自然にとっても関心をもっており、その中でも生き物、特にホタルに関しての興味を強くもっていた。そこで、金山に住むホタルについて、本やインターネットを使用して調べる活動を行った。調べる中で、ホタルが生きるために水が大切なことを知り、金山は豊かな自然を大切にしているからこそホタルが住み続けられる環境であることを発見していった。

12月には、ホタルを守る活動をしていらっしゃる地域の先生をお呼びして、これまで金山小学校で行ってきた実践や先生が経験されてきたことを「五感をつかう」をテーマにお話していただいた。昔は今よりもっとホタルが飛んでいたそうで、その際に捕まえながら歌った歌を教えていただき、みんなで歌ったり、竹の葉を使ってホタルを捕まえる疑似体験をしたりした。子供たちは、「先生のホタルを大切にしている気持ちがすごく伝わってきて、自分ももっと大切にしていきたいと思った」や「昔の人の竹の葉で捕まえる知恵がすごいと思ったし、ホタルの気持ちを考えているところが優しいなと思った」など、自分たちで調べただけでは分からなかったことをたくさん知ることができ、自分の住む地域にホタルの保護について全力を尽くす人がいることにも感動している様子だった。

子供たちは学習を通して、ホタルを守ろうとする地元の方の努力や生き方、ホタルの舞うふるさとの素晴らしさに気付くことができた。

#### ○4 学年 総合的な学習の時間「金山地域の水環境を調査しよう」



用水や水門についての説明を聞く。



ため池の歴史や役割についての説明を聞く。

子供たちは1学期から、金山の自然のよさや環境問題について学習してきた。調べ学習を進める中で「金山のよさは、田や畑が豊かで米や野菜が採れること」に気付いた。一方で、「地域によっては、水不足が原因で米や野菜が十分に育たないなどの被害がある」ことを知り、金山ではどのように対策しているかについて疑問をもった。

10月に実施したため池見学では、地域の先生に案内していただきながら、金山の田や畑にどのように水を引いているかを教えていただいた。説明を聞く中で、「ため池でどれくらいの水を蓄えられるのだろうか」「ため池はいつから使われているのかな」と新たな疑問をもち、地域の先生に質問していた。また、「金山の米や野菜はため池に水を蓄えているおかげで安定して収穫できること」や、「金山では昔からため池を活用していること」に驚いていた。地域の先生から直接お話を聞き、実際に見学することを通して、新たな疑問をもったり、「金山の自然を守っていききたい」という思いを高めたりすることができた。

## ○5 学年 総合的な学習の時間「見つめよう 金山の食」



田んぼの先生に手ほどきを受けながら田植えをする。



稲の束ね方について教えてもらいながら実際にやってみる。

5年生は、毎年、総合的な学習の時間を使って、米づくりに挑戦している。その際には、地域の方で組織された「学校田運営委員会」が米づくりに大きく携わってくださっている。今年度も学校田運営委員会の方（通称：田んぼの先生）の力を借りながら、田植え、稲刈りを実施した。子供たちは最初に「金山の米」について調べ活動をした。調べたことの話合いの中で、「学校田で植える『新大正餅米』は幻の餅米とされている」「米作りは1年間ずっと続き、金山ではそれが毎年続いているからすごい」と驚いていた。学校田での田植えでは、苗作りや土作りまでして下さった田んぼの先生に対する感謝の気持ちをもって参加した。田植えの難しさを感じるとともに、田んぼの先生のスピードと正確さに見惚れていた。9月の稲刈りでは、猛暑だったにも関わらず、学校田にはたくさんの稲穂が実っていた。これは、田んぼの先生が田を管理し、世話を続けてくださったからだ感謝の気持ちをもつことができた。また、金山の食や農業について調べたことや体験して感じたことを話し合う中で、米を収穫する際の努力や工夫に気付くことができた。このような一連の活動の中で、自分たちのために一生懸命に協力して下さる地域の方々に対して感謝の気持ちを一段と感じるようになった。「だからこそ、ぼくたちは学校でがんばろう」「金山の一員として、何かしたい」と考えるまでになった。実際に地域の人と触れ合い、共に稲作体験をさせていただくことで、金山の地域のよさや人の温かさを感じることができた。

## ○5・6 学年 総合的な学習の時間「見つめよう ふるさと！今わたしたちにできること 150周年プロジェクト」

本校は今年創校150周年を迎えた。子供たちは総合的な学習の時間に「自分たちは、どんな金山小学校を目指したいのか」について、じっくりと話し合うことからスタートさせた。子供たちは、「優しさ」「思いやりの心」をもっていることが、金山小学校のよさと考えた。また、いつも温かく見守り、いろいろな体験をさせて下さる地域の方々がいっぱいいることも、自分たちの宝物だと考えた。そこで、行事を通し自分たちから地域の方々に働きかける活動を進めることにした。

地域の方と一緒に  
楽しみたいと  
いう子供たちの  
願いから

- ・運動会…地域の方々や保護者のみなさんと一緒に全校で行う「金山小学校 150 周年記念応援コール」
- ・姉妹校交流「渋谷区立猿楽小学校訪問」…「金山の宝もの」の発表「宝ものは自然と地域を包む温かい思いやりの心」
- ・学習発表会…地域の方々や保護者のみなさんと一緒に歌う「みんなで歌おう 『ふるさと』」、全校でのお見送り
- ・創校 150 周年記念行事…記念式典、餅つき、会食、創校 150 周年おめでとう集会、メッセージボード、感想の募集



応援コール



猿楽小学校での発表



企画会議



餅会食



150 周年おめでとう集会



地域の方の感想文

6 年生の子供たちは、運動会を地域の方に楽しんでいただくためには、自分たちの輝く姿を見せるとともに、一緒に金山小学校への応援コールをしたいと考えた。運動会の当日に呼びかけると、多くの地域の方々が応援コールに参加していただけたことに喜びを感じ、地域との一体感を味わうことができた。そしてさらに、一緒に楽しんでいただけることに感謝したいと考え、その後の活動では 5 年生と協力して、地域の方と一緒に楽しみたいという強い願いをもって活動を進めていった。創校 150 周年おめでとう集会では、地域の方々にアンケートをとり、その結果をランキングクイズにして発表した。また、群読、ダンス、合唱等の全校発表でも一緒に声を出したり、動いたり、歌ったりできるように呼びかける言葉を考えるなど、地域の方が興味をもって参加したくなるような企画を考え実現させた。活動後、地域の方からの感想を食い入るように見つめる子供たちの姿が印象的だった。

### 3 おわりに

今年度、今まで当たり前に行ってきた活動を教師と子供たちが一緒になって「地域とのつながり」という視点で見つめ直した。そして、

「子供たちが、地域の方が、教師自身が来なくなる学校」を目指し、研修を進めた。研修会では、目指す姿を共通理解したことで、学年や教科、経験年数が違っても授業に関して共通の視点で考えることができ、有効だった点や改善点について具体的に話し合うことができた。子供にとっても教師にとっても学校が楽しいと感じるた



子供たちの目指す姿を共通理解する研修会の様子

めには、さらなる教師力の向上は欠かせない。OJT の活性化を推進し、みんなで学び合う雰囲気を高めていきたい。また、年間カリキュラムを整理し、全ての教科領域での実践を工夫することで、学びを確実に積み重ねることができると考える。6 年間の積み重ねの中で、子供たちは「金山の宝ものは人である」と感じるようになっていることがこの研修を通して分かってきた。この姿は、将来自分も金山の一員として胸を張って生活していく姿につながると考える。今後も、地域とのつながりを大切にしながら、ふるさとを大切にすることの育成に努めていきたい。